

第1回書面議決での令和2年度事業計画(素案)及び予算(素案)への意見一覧

番号	令和2年度事業計画(素案)への意見	令和2年度予算(素案)への意見	質問への回答
1	情報発信について、消費者が「知って、選んで、人に勧めて、また買う」ことができるよう、様々な手法での情報発信、周知を考える必要がある。	都市部での売込みについて、山手線の車内で「山口県の定住促進事業」の放映を見たことがある。費用は掛かるかもしれないが、効果があるのではないかと。	
2	地域産品のPR・販売において、量販店等でブースを設置し販売を行うことは効果が見込める。 推進店等との連携については、連携する店舗について宣伝し、知名度を上げる必要がある。 道の駅ソレーネ周南での販売は、年間を通して常設ブースがほしい。		
3	市民を対象にした地域産品の料理コンテストがあれば、推進店等と連携した地域産品メニューフェアの前夜祭として盛り上がると思う。	地産地消料理教室事業と新商品開発事業に予算を増やすべき。	
4	しゅうなんブランド及びその他の特産品を市外・県外へ広げる方法として以下を提案する。 (1)情報発信 ①周南料飲組合検索サイト「SHUたべ」を活用した、生産者及び特産品の情報を発信する地域ブランディングの仕組みの構築 ②「SHUたべ」と連動して、SNSやYouTube動画にて、生産者及び特産品を発信するパーソナルブランディングの仕組みの構築 (2)消費をあげる施策 ①市内の消費をあげるため、生産者と事業者をマッチングする商談会及び試食会の開催(対面及びWEB企画) ②周南料飲組合で市内の農産物を一括購入できる仕組み作り及び特産品のマッチングを行うことで、配送料等の経費を抑え、市内飲食店に流通しやすい仕組みを構築する (3)市外、県外への促進活動 ①共同での商品開発を行い、市内外への販売に努め、価値を高める活動 ②市外、県外のイベントや商談会への参加で、販売促進 ③コンベンションやふるさと納税などでの商品の販売		
5	新型コロナウイルス感染症拡大の影響による消費の低迷を回復させるため、農林水産物や加工品等の販売促進や、飲食店の安定経営に向けた取組みを最優先すべきである。新規事業と絡めて、県等と連携して企画すると良いのでは。		
6	しゅうなんブランドや周南市地産地消推進店の知名度は高いとは言えないため、量販店等での地域産品フェアや推進店等と連携した地域産品メニューフェアを何度も開催し、認知度を上げる取組みが必要だと考える。		

7	量販店等での地域産品フェアについて、フェアの期間中は売れても、その後どのように繋げ、どのようにPRするかが大切。 しゅうなんブランドの認知度が低いため、周知の方法をさらに検討する必要がある。	【質問】 収入の部に「しゅうなんブランドシール代売上」とあるが、有料なのか。	【回答】 有料です。1枚1円で、当協議会事務局である農林課の窓口にて販売しています。(＋税)
8	量販店等での地域産品フェアについて、市内店舗での地域物産フェアを開催する。		
9	【質問】 ①量販店とは市内のスーパーを指すのか ②直売所とは、どのような事業所を指すのか		【回答】 ①そのとおりです ②地元の農産物を販売する施設であり、周南市内では、道の駅ソレーネ周南、ふれあいプラザ須金、大潮田舎の店等があります。
10	量販店等での地域産品フェア、推進店等と連携した地域産品メニューフェア、道の駅ソレーネ周南や直売所等との連携の3事業について、マルシェのように小さなテントを連ねる形式にして、試食や販売を行うと良いのではないかと。集客でき、周知のきっかけになると思う。	消費者としての意見を言うと、レシートラリーは少し面倒なイメージがあるため、この予算を他事業に充てるべき。	
11	市外での売込み強化について、「しゅうなんブランド」というだけで売れるものではないため、全国の優れた産品を研究し、それらに勝るものを創出する必要がある。	全国の優れた産品の研究に予算を充てるべき。	
12	市内店舗を活用したフェアや、地域産品での食育活動等を実施する。		
13	推進店とのメニューフェアについて、お弁当、テイクアウト商品等、飲食店が参加しやすい体制にする。 直売所等との連携について、地域エリア別を実施することを考える。 女性起業家向けの研修会等の企画を行う。		
14	地域商品のPR・販売において、市内店舗で開催したい。		